

2026年5月31日（三位一体主日・聖霊降臨後第1主日、A年）

メッセージ

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わり」

（マタイによる福音書28：16-20）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音は、ご復活後の主イエスと弟子たちが再び出会う場面です。弟子たちは約束の山で主イエスに会い、ひれ伏します。しかし、その中には「疑う者」もいました。目の前にご復活の主イエスがおられるにもかかわらず、です。その弟子の心に、主イエスが気づかれないはずがありません。しかし主イエスは、その疑う弟子にも近づき、語りかけ、宣教へと召し出されます。

疑いをも超えて近づいてくださる主イエス。この主イエスの姿に、神の思いが溢れ出ています。世界を創造し、すべての命を「極めて良い」と宣言された神は、すべての命を祝福し、愛し抜かれます。しかし、その神から、その愛から、人間は離れてしまいます。その人間を、神は何度もご自分のもとへと連れ戻そうとされますが、それでも人は神から離れ、別の何かに頼り、彷徨います。これが旧約聖書に明らかにされている、人間のリアルな姿です。

しかしそれでも、神は人に近づいてくださいます。創造のはじめから私たちの命を祝福し、その命を見捨てない神は、何としてでも私たちにその愛を伝えるために、ついに私たちと同じ姿である御子を、この世界へ遣わしてくださるのです。「あなたがたと同じ人であれば、あなたがたは分かるだろう」と、その愛を「あなたとわたし」の距離にまで近づけて届けてくださるのです。そうまでして、すべての命を極めて良いと祝福し、愛してくださる。それが、御子の受肉によって示される神の愛です。

そして、先週の聖霊降臨日にお祝いしたように、主イエス昇天後は、聖霊が私たちについてまでも伴い、導き続けてくださっています。今日の三位一体主日にこの箇所が読まれる意味も、ここにあるように感じます。三位一体なる神は、父なる神として、子なる神として、聖霊なる神として、つまりあらゆる仕方で私たちに近づき、語りかけ、父と子と聖霊の交わりへと私たちに招いてくださるのです。私たちが疑うことなく立派な者だから招かれるわけではありません。神が、私たちの疑いをも超えて近づいてくださるからこそ、私たちはその交わりへと招き入れられるのです。

今日の使徒書にあるパウロの祝祷、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にありますように。」は、私たちが礼拝や会合の終わりに繰り返し唱える言葉です。神が近づいてくださり、私たちに父と子と聖霊の交わりの中へ招き入れてくださるからこそ、私たちは主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりの内に生かされています。

三位一体主日、近づいてくださる神の招きをあらためて感じ、神の愛と祝福を全身に受けて歩んでまいりましょう。